炭労 登校拒否を指示
妨害をはねのけ闘争支援

総評の秋季年末闘争方針による第一次行動のひとつとして八月十五日勤評反対和歌山大会で、金労働者、全国民の幅広い闘いで勤評を粉砕する方針をきめたが、総評はさらに第二次行動の一環として、いままでの共闘を一層つよめ「勤評反対闘争」「ごまかしの最賃法案粉砕」「日中国交回復、貿易再開の促進」「紙パの労協闘争、合化、鉄鋼の首切り反対闘争支援」を強力におしすすめることになった。炭労は八月二十五日戦術委員会で、総評の秋季闘争第二次統一行動を具体的に推進するため、最低賃金法制化のための実力行使の態勢確立をふくむ日教組の授業打切りの実力行使を支援成功させるための子弟登校拒否の指示をだした。

総評秋季闘争第二次統一行動は
1、金労働者階級にたいする攻撃として実施されつつある勤評反対
2、政府のデタラメ最賃法案を粉砕し、全国一律八千円の最賃法制定
3、平和擁護運動の一環として日中国交回復、貿易再開を促進する
4、紙パ労協闘争、合化、鉄鋼の首切り反対闘争支援

の四点が指標で、九月十五日を行動目として、日教組が午後授業打切りを最低とする実力行使をおこない、教育委員会などにたいする抗議をおこなうこと、各単産は闘争態勢を整備し、勤評反対闘争を中心に地域共闘組織を確立することが中心である。

理解を深めよう

炭労は金労働者の連帯行動で敵のねらいを粉砕するため大要次のような指示をだした。各支部毎に入坑時間その他をふくむ休憩時間内に職場大会をひらいて、闘争指標の理解をふかめるとともに、日教組、王子製紙、合化、鉄鋼の闘いに激励の電報をうつ。

また、教組がおこなう午後授業打切りを最低とする実力行使に際しては、半日早退の場合もいろいろな問題が生じて無用の混乱がおこることをさけるため、炭労傘下組合員の子弟は全員全日登校拒否を実施する。

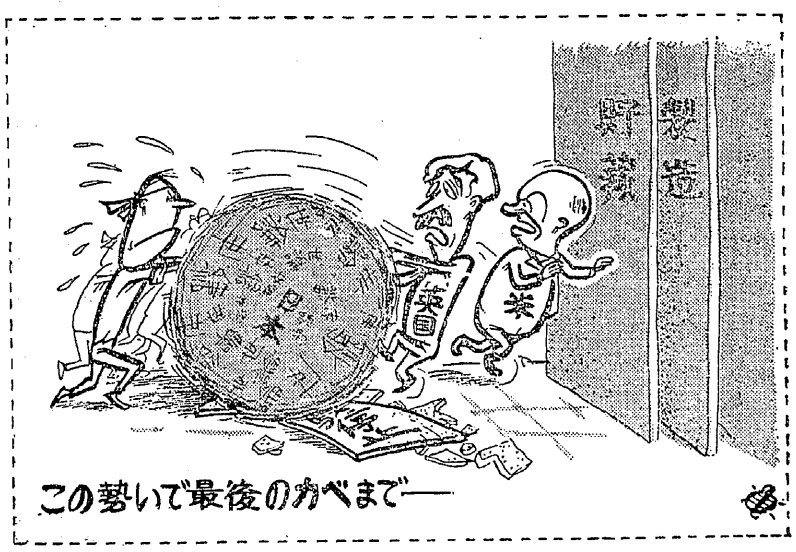
この行動にはいままでの各地の闘いにみられるように、自民党や右翼、政府権力の妨害、挑発介入が考えられるので政治局員の動員などによって、PTAのボス支配をふくむ一切の妨害をはねのける計画をたてること。

母親は署名運動で

教宣部を中心に教組組合員と主婦会員をふくむ、母親の居住区集会を計画して、勤評粉砕の意義についての話合いをし、母親の手による全母親が子弟登校拒否賛成の署名運動をおこし、混乱なく登校拒否を実施し教組の実力行使が最大の成果をあげるようにする。

さらに第三次行動として、最低賃金制を中心に官公労の権利闘争、予算闘争や、日中関係正常化などの広汎な実力行使が予定されており、炭労は最賃制を指標に実力行使が出来るよう教宣をおこない、地域民にも理解を深めるための行動を計画すること。

以上の指示を三池として完全に消化するための具体的なことについては三池の戦術委員会で検討し、早急に下部徹底をはかる。



ときの焦点

前進示した母親大会

▽…ことしの日本母親大会は、勤務評定問題にからんでこれまで後援してきた各地の教育委員会が手をひき、あげくは「母親大会では勤務評定の反対をきめるな」など、参加者にたいし妨害や圧力が加える中でおこなわれた。それにもかかわらず、沖縄からの三名の代表を加えて文字通り全国から約一万人の母親が大会に参加した。

▽…大会はそれぞれ各地でおきている問題をだしあって活発な話しあいをおこなったが、そこでは保育所や施設づくりなどの問題から、PTAの活動、年金や制度の学習、民主教育を破壊するさまざまな文教政策、とりわけ勤務評定について強い関心を示していた。そしてこの勤務評定をふくめ、母親たちの身じかにおこっている問題は、訴えあい、なぐさめあうだけでは解決しないことをあきらかにし、政治の方向と母親たちの運動を阻害しようとする姿をよく見きわめようとくりかえされた。

▽…大会で採択された宣言は「〃話しあいから行動へ〃を合言葉として、私たちの子どもをしあわせにするために、たちあがりましょう。平和を守るために手をつなぎましょう」とよびかけた。ここではいままでの「お願いします」調や「涙の訴え」は姿をけしてしまっていた。一人の母はよわいが、その母が集り手をつないだとき何ものにもまして力強いことを知り、運動をひろげること、行動をおこすことを今後の運動のささえにすることも話しあわれた。

▽…初参加者が七割以上を占めながら、大会の内容が充実したものになっていたことの一つに参加者が県、郡市、ブロックなどの大会をひらいて組織的におくられてきたことがあげられるだろう。その数は百会場、参加者五三万人を数えるという。またそれだけに、ことしから試みられた分科会報告、全体討論を除外した全体集会のもちかたに不満がだされていた。分科会を交流させ、問題を全体で話しあうことによって、母親たちをひきずりこんでいるうずの正体が明らかにされるであろうに、とは参加した母親のいつわらぬ声でもあった。

▽…しかし大会に出席したインドのビグネイ夫人は、日本の母親たちの運動にふれて「日本婦人が直面している問題、社会的な問題と積極的にとりくんでいるのにおどろきました」と語っているように〃行動〃を合言葉としたこの大会には多くの成果が内包されていた。（K）

無期限スト 既に一カ月半
王子製紙の闘争つづく

【KNA】紙パ労連傘下の王子製紙労働組合（約四千三百名）は、去る二月二十八日の春闘以来六カ月に近い闘争を展開しているが、ついに七月十八日からは無期限ストに突入している。

いま苫小牧支部（北海道組合員約三千三百）は第二組合結成と御言、会社側と血みどろの闘いを展開しているが、春日井支部（愛知県組合員千名）も第二組合が工場内にたてこもり、やはり彼等と御言会社と必死の闘いを展開している東京本社（組合員二七〇）はいち早く第二組合を結成、苫小牧、春日井の第二組合結成の中心となり区組合宣伝を大々的に各支部に流し、会社の積極的な利用を得て、オルグが各工場にとびまわり、第二組合結成にもち込んでいる。

いま本社組合員のほとんどが第二組合員であり、闘争分裂の根拠地となった。

こうした中で組合本部は会社に強く団交を申入れているが、役員が本社ビルに入ることを拒否し、団交に応ぜず、総評、紙パの友誼団体の抗議団交に警察の装甲車を介入させている状況である。

王子製紙は全国新聞の約三〇％を苫小牧工場で生産しており、上質紙は春日井において、日本でも最も優れた製品を生産しており、原料である原木も山林を十一万町歩を持ち、日本一の山林地主である資本家は、神武景気で膨大な機械施設を増設したが、他産業における同様に、この不況を切りぬけ、更に今後の独占的地位を保持するため、紙パでも最も闘争力のある王子製紙労働組合の圧殺にのぞんで来たのである。

組合の円満早期解決のための中労委斡旋もけり、団交に応ぜず協約については、ユニオンショップの否定、組合活動の制限、組合への便宜供与廃止制限、争議行為の制限など悪らつな改悪案をもち出しついに六月十七日以降無協約状態としたのである。

更に会社はいまの組合には首を切りたい奴がたくさんいる。このモヤモヤをスッキリさせるための協約改訂であるとヌケヌケと言明している。

いま組合は第二組合を作った会社の策謀に対して激しい怒りをもち闘いを続けているが第二組合は主として学卒、事務員、職制クラスが中心であり、今後のなりゆきが注目される。

（王子製紙労組提供）

書記労もカンパ
期手闘争の重点ストで

きの期末手当闘争は、闘争終結後、炭労傘下全組合員が無期限ストに突入した仲友にたいして一人当り七二〇円をカンパすることにきまり、すでに支払われた期末手当と九月十五日の給料より徴収される。

三瓩労組の書記でつくられている書記労では、スト・カンパについて審議していたが、さる二十二日総会をひらき組合員と同等のカンパをおこなうことをきめ、二十六日にこの旨の申入れがおこなわれた。カンパ額その他については組合員同様におこなわれる。

なお、書記労では、いままでも各闘争を通じ、三瓩労組がカンパをおこなうときは、組合員と同様にカンパをおこなっている。

和歌山の闘争を支援する全国の教組

勤務評定とは？

かなりの人々が「子どもだつて点をつけられるのだから先生も点をつけられたらナマケ者がなくなるだろう」とわりにあつさり考えています。子どもの通信簿は教育に属することですし、一方勤務評定は人事管理に属することではつきり区別されるものです。生徒にたいする採点は、本人にも親にも知らせて「採点の結果はこうなつています。これを参考にして家庭でもいつそうはげんでください」というものですが、勤評の結果は一切秘密というきまりになつており、本人には絶対に見せません。

そして教育委員会の金庫に入れこれを見るのは教育委員や役人だけで、これで昇給や転任、退職などが一切きめられるのです。

誰がつけるのか

本人には一切見せないのだからこれで本人を反省させたり、はげましたりして教育の能率をあげるということができるというのはウソも大ウソです。しかも秘密とはいえ昇給が止まつたり、ひとつの学校についていやでも何割かの先生が不良教員としてラク印をおされるのですから、おそかれはやかれ父母や子どもたちの間にもれていくことになります。

こうなつたら児童や生徒は、すべての先生にたいして「あの先生は何点先生」と腹のなかで値ぶみしてかかることになるのです。父母と子どもの信頼のうえにこそ教育はなりたつのに、こうなつたらもう教育も何もあつたものではありません。

勤務の成績を福岡県では四段階にわけています。たとえば、教師がある学校でAと評定されたとしても、他の学校でAと評定された教師が同じ程度に優秀であるともいえません。

こんなことが昇給ストップ以外に役立つことは考えられません。もうひとつ大事な問題がありますそれは誰が勤評をつけるのかということです。

勤務評定は都道府県の教育委員会が計画し、市町村の教育委員会が行うことになつています。一般教師の場合は、校長が第一次の評定者となり、次に市教育委員会が行うことになつています。

さて、ここで校長と教師との関係ですが、学校教育は校長を中心にして全部の先生がしつくり結ばつていなければ、真の教育効果はありません。

家庭と同じで、父が長男ばかり可愛がつたり、たとえ末ツ子の通信簿の成績がすこし悪いからといつて、子どもたちを差別したのでは、円満な家庭は築けません。勤評によつて、校長と教師の間に重くるしい対立がおこされないとは断言できないのです。

血迷つた文部省

また第二次評定者である教育委員会は、現場の学校から全く遠い人ですし、ほとんど教育の専門でない人たちですから、ハダざわりによる評価としかなりません。

しかも、公選から任命制になつて成立した教育委員会ですから、この権力をもつている委員会はさらに強い権力からの支配には、極めて抵抗の弱い機構です。

文部省はこの勤評を実施することによつて「教育の能率をあげる」とくりかえしいつていますが、このことには私達教師は大いに賛成します。文部省が教育の能率をあげる方法をほんとに真剣に考えているのなら全国五十万の教師と総評をはじめ国民の多数が反対している勤評に血眼で努力するより他にやる仕事が山程あるはずです父母のみなさんが月一回あるPTAの授業参観で感じられるでしょうが、せまい、しかも暗い教室に六十人近い子供がはいつて熱心に先生の話をきいている姿がまず目に映ります。学校教育法という法律には五十人が一学級の生徒数と定められています。大牟田では老朽校舎、危険校舎も残つています学校によつて教室備品、教員が完備したところと貧弱なところがあります。文教優先とは政府の口からききますが、無慌であるはずの小中学校生徒の学業費はますます高くPTA会費、給食費その他子供の学業費は家計の中で相当のパーセントを占めています。

こうした子供をとりまく教育の条件を整えることが、一番力を入れてやるべき政府の仕事であるし一ばん目に見えて子供たちのためになることです。

暗くなる教員室

こうしてでたらめな勤評が実施されたとしたら、子供の教育にどんな影響があるでしょうか。勤務の評定はおもてにあらわれたことできめられがちです。しかも校長がいつも授業につききりではないし、教育委員も一年のうち数えるほどしか学校にこないでしょう。そうした人によつて評定されるのですから、教育はうわべをつくろつた、みせかけの教育になつていく危険性があります。憲法や教育基本法にそうた教育は教育委員会からにらまれることになり、子供たちの自発性を大切にした、父母の願いにこたえるための教育はできなくなり、政府のための教育ばかりが残ることになります。職員室も暗くなります。

教育委員や校長のさじかげんひとつで、どうにでもなる評定ですから、校長や教育委員の顔色ばかりうかがつて、地道な教育よりもその結果がすぐ人にわかるようなハデな教育を行うようになるでしょう。一口にいつて教師が勤評に即応する姿勢に自然となつていくのも、食いとめることはできないでしょう。昇給や転任、退職などすべてに関係してくるとなると、誰でも悪い点数はつけられたくありません。

このように、勤評の及ぼす悪影響は教師だけでなく、一ばん迷惑をうけるのは子供たちという結果にもなりかねないのです。

子供の生活を守り、幸福にするためには、教師が力を合せることが何より大切です。（この原稿は市教組からの寄稿です）